

シリーズ 2, 富山で育つ宿根草

(2) ネパタ・ファッセニー

職藝学院 教授 渡邊美保子

ネパタ・ファッセニーは、イギリスでは、昔から花壇の縁取りとして植えられている代表的な宿根草です。別名はブルーキャットミントで、葉っぱをこすると甘いミント系の香りのするハーブとしても知られています。富山では、ウコンザクラの花が満開になる4月中旬、ラベンダーブルーの小花がぽつりぽつりと色づき、5月末ごろまで咲き続けます。

ひとつひとつの小花をじっくり眺めますと、太陽の光によって透けて見えたり深みをましたりして紫水晶のような透明感があります。株全体では、淡い紫色の水彩絵の具を塗ったように見えます。華やかさはありませんが宿根草を組み合わせた庭づくりには欠かせない脇役です。最大の特徴は、花が咲き終わったあとに切り戻すと、再び花茎が伸びて開花するので、なんだかお得な気分になる宿根草です。また花の咲いていない時でも、こんもりとした草姿は銀灰色に輝いてとても上品です。

好む場所は、日当たりがよく風通しの良いところです。苗を植栽した年はそれほど大きくなりませんが、気をもむ必要はありません。ひと冬ごとに株が広がりますので、縁取りとして並べて植えるときは株が蒸れないようにするため最低50cmは間をあけるとよいでしょう。開花時の草丈は40~60cmぐらいです。風通しが悪いと株が蒸れ、葉が黒く枯れてくるため梅雨に入る前の6月初旬までに一度切り戻しをすると、8月ごろ再び花が咲きはじめます。相性の良い組み合わせは、銀灰色の葉をもつラムズイヤー、ラベンダー、セラスチュームなど、また、淡い紫色の花をよりいっそうひきたたせる明るいレモン色の花が咲くルーなどがおすすめです。

